



医療法人別府玄々堂 別府湾腎泌尿器病院

別府湾腎泌尿器病院名誉院長 寺地 敏郎

別府湾腎泌尿器病院（Beppu Bay Urology Hospital）は大分県別府市の別府湾岸を南北に走る国道10号線沿いに、大分大学腎泌尿器外科のエース、佐藤文憲准教授を病院長に迎え、2018年2月1日に新たに開院しました（図1）。診療科目は泌尿器科／内科／循環器内科／糖尿病内科／婦人科／麻酔科／リハビリテーション科／放射線科ですが、泌尿器科医が現在4名、本年4月からは5名体制となり、名の通り泌尿器科の診療を中心とした60床（一般病床26、地域包括ケア病床34）の病院です。

大分県には中小規模の病院が多く、特に県中北部では泌尿器科医はどの病院も1人か2人で、これまで核となる施設がありませんでした。また現在、泌尿器科手術は腹腔鏡手術やロボット支援腹腔鏡手術といった低侵襲手術が主流となり、特に高齢化に伴い増加傾向の強い前立腺癌の手術においては、手術支援ロボットが欠かせなくなってきた。しかし、大分県には手術支援ロボット da Vinci は大分大学病院にしかなく、患者さんの手術待機期間が長く、その対策が求められていきました。このような事情を背景に、大分市の北側に隣接した別府市に当院が誕生しました。病院の基本理念を「いのち

を慈しみ、その輝きを支えます」とし、大分県中北部の泌尿器科診療の基幹病院として地域住民、医療に貢献したいと考えています。佐藤病院長と私は特任教授として大分大学にも勤務しており、大学病院と強く連携し高度の泌尿器科診療を広くかつ迅速に地域住民に届けたいと願っています。

施設の一部を紹介します。手術室は2つですが、一室には手術支援ロボット da Vinci Si があり（図2）、1年間で62例のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を行いました。もう一室で手術用3D内視鏡システム（VISERA ELITE）を用いた腹腔鏡手術やグリーンレーザーを用いた前立腺肥大症の手術PVPやTURP、ホルミウムヤグレーザーを用いた経尿道的尿路結石手術TULや経皮的腎碎石術PNLなどをしています。また、最新の超音波診断装置（ARIETTA70）と高精度前立腺標的生検装置（TRINITY）を用いた前立腺生検もこの部屋で行います。外来には体外衝撃波結石破碎装置（Delta II）も備えて、疼痛の強い患者さんに対応しています。また、病院の2階部分には一般財団法人大分健康管理協会 大分総合健診センターが入り、前立腺癌をはじめ腎尿路疾患の早期発見にも努めています。



図1 病院全景



図2 手術室

病院の眼前には大型客船も停泊する別府観光港の広大な芝生とヤシの林が広がり、窓からは北に国東半島、南に高崎山、大分市、佐賀関と別府湾を一望できます。晴れた日には別府湾の彼方に四国の佐多岬も姿を現します。病院の裏手には扇山、鶴見岳がそびえ、その麓には別府温泉の数えきれぬほどの湯けむりが立ち上っています。こうした環境の下、一人でも多くのいのちの輝きを支える医療を求めて、職員全員が日々努力しています。

編集後記

桜の花の開花が待ち遠しい季節となりました。No. 31 日本国際外科学会ニュースレターをお届けいたします。今回も、盛りだくさんの内容となっております。広報委員会は、当初は、ホームページの作成を目的に発足しました。その後、活字媒体のニュースレターの発刊も役割となり、年3回発刊しております。今後も、ニュースレターは、手に取って楽しく読んでもらえるものとして創意工夫して、お送りしてまいります。掲載内容のご

希望があれば、学会事務局まで、ご連絡ください。楽しい記事をお待ちしております。また、ホームページは、更に充実した内容になる予定です。ホームページ巻頭の写真は、会員の皆様からの投稿写真を採用しておりますので、是非、ご応募をお願いいたします。会員の皆様で、楽しくためになる広報を作り上げていきましょう。季節の変わり目です。勤務異動などもある先生方もいらっしゃると思います。お体をご自愛ください。

（山田英夫）